

課題別研修「小学校理科教育の質的向上 ～「教えと学び」の現場教育～」

対象国： バングラデシュ、カンボジア、エジプト、
ケニア、リベリア、モルディブ、ミャンマー、
ナミビア、パプアニューギニア、
サウジアラビア、ザンビア

受入人数： 13名

受入期間： 2019年10月14日～2019年12月14日



開発途上国の小学校では、先生が前に立って教科書を読み上げ、生徒はそれを聞き、暗記するだけという先生中心の理科の授業が多くみられます。

本研修は、教員や教員学校の指導者等を対象に、実験や観察を通じた問題解決型の授業を行う人材の育成を目的として、実施しました。

日本の教育現場の視察、単元を見通した指導案の作成、身近な材料を使用した実験の開発、小学校や高校での理科授業の実践等をとおして、研修員は日本式の教授法を学び、自国で本研修の成果を活用することを約束してくれました。



帯広市児童会館が小学校5年生向けに行っている実験「キャラメルづくり」を、研修員も体験しました。



北海道立教育研究所附属理科教育センターから、身近な材料を使った様々な実験を紹介していただきました。



北海道教育大学附属釧路小学校の3年生に、「磁石の性質」について授業を行いました。



帯広柏葉高校で行った「電気の通り道」の授業では、チョコレートの包装紙、缶、炭など様々なものを準備し、どのような素材が電気を通すのか予想し、実験して検証しました。